

令和4年度 学校評価書

学校名： 静岡市立高等学校

I 経営の重点に関わること

1 学校教育目標	自己評価	学校関係者評価委員会から	
「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。			
2 重点目標 生徒一人ひとりの自立(自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること)に向かって未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活(学習、部活動、学校行事等)を通して、3つの資質・能力(自己有用感、視野の広さ、主体性)を生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。	(1)授業、部活動、家庭学習時間の確保 ①部長会や掲示物等を利用し、一人ひとりが活躍する部活動になるよう指導する。【生徒課】 【学校説明】 それぞれの部活動の良さを活かし、年間通して活動した。 ②「帰宅時間調査」を年2回実施し、午後7時半までに学校敷地外に出る生徒の割合が前年度並みとなることを目指す。【教務課】 【学校説明】 6月調査では、同条件で調査した一昨年並みであった。11月調査も、昨年並みであり、家庭学習時間の確保に向け学校全体で連携できている。 ③授業評価アンケートにおいて「主体性・視野の広さ・自己有用感」が身についたと感じる生徒が、全体の80%を超える。【研修課】 【学校説明】 主体性が身についた生徒が93%、視野の広さが91%、自己有用感が85%であった。	A	学校関係者評価委員会から A 部活動については全国レベルの大会に出場しているものもあり、高く評価できる。 A 限られた時間内に目標を達成するには、部活動との兼ね合いもあり難しいが達成できている。 A 1年次から段階的に身につけていると高く評価できる。 B 数値目標を達成していなものでやむを得ないが、動画配信等の試みはAに値する。 A がんばっている生徒や、学校の丁寧な指導、教育方針を地域の中学生とその保護者に伝えるためにもWebページを充実したい。 B 教員の業務をサポートするスクールサポートスタッフを配置しており、改善が見られるが、業務量自体を削減するよう見直しが必要。
	(2)地域や保護者に関わった学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進 ①PTA研修会の参加率5%程度増加。PTAが関係する行事のホームページへの記事掲載5回以上。【総務課】 【学校説明】 PTA校内研修会の参加者は30名で、昨年度より減少した。ホームページへの掲載は予定通り行われた。また、PTA役員の協力により文化祭・体育大会の動画配信を実施できた。 ②授業公開リーフレットは5月からの中学校訪問に間に合うよう作成する。学校案内は9月完成を目指す。Webページは年間平均閲覧数で2,500件/日を目指す。【情報課】 【学校説明】 授業公開リーフレットを予定通り作成した。学校案内の作成に当たっては、外部業者に協力を依頼することで、デザインを一新することができた。Webページの年間平均閲覧数は2,542件/日であり、目標値を達成することができた。	B	
	(3)教職員のワークライフバランス(仕事と生活の調和)に配慮した校内体制の整備を推進する。 ①昨年度と比較して時間外勤務が減少した、又は業務量が適正であるとする教員が50%以上。【管理職】 【学校説明】 今年度から、印刷や配布準備等の業務を支援するスクールサポートスタッフが配置され、生徒に向き合う時間が増えた、自身や全体の業務に効果があると感じる割合が高かったが、コロナによる部活動制限の緩和や観点別評価の導入等により、全体として時間外勤務は減少が見られなかった。業務や分担の見直し等が必要である。	B	

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から		
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①・普通科特進クラス、科学探究科の全クラスに対して、毎日朝の課外授業を実施する。 ・3年生に対して4月から12月まで、放課後の課外授業を実施する。【進路課】 【学校説明】 ・特進クラスと科学探究科に対し、1年間通して朝の課外授業を実施した。また普通クラスについても週2～3回の課外授業を開講することができた。 ・3年生に対して1年間通して、放課後の課外授業を行うことができた。この後2月からも特別補講を実施する予定。	B	学校関係者評価委員会から A 学校としては非常に努力し、国立大学進学率の上昇にも貢献しているのもっと高く評価してよい。 B 評価基準については、指導計画とともに普段の見直しをお願いしたい。また、生徒一人ひとりの「今よりも良くなりたい、成長したい」といった思いを引き出し、志を持たせたい。 A こうした思い、志こそ、困難を乗り越え、努力を続ける原動力となる。そのためにも様々な場面で、達成感や成就感を持たせる指導を積み上げて、生徒に意識づけることが大切である。 A 生徒が自己の状況を客観的に捉え、関係者とともにその情報が共有されていることが進路実現にとって重要である。 A 視野を拓け、自分にはないものの見方や考え方に触れることは、思考力を伸ばす上で不可欠であり、一層の充実を望む。 A 目標値をクリアしている。 B もう少し具体的な事例を書き込んだほうが良いのではないかと。		
		②学習習慣の定着や学力向上に関する学年の取組 ・学習時間は、平日は2時間以上、休日は4時間以上を目標とする。年間の成績優秀者の目標を45名とする。【1年部】 ・平日部活時間+学習時間合わせて5時間以上。休日部活時間+学習時間合わせて7時間以上。成績優良者40名以上。【2年部】 ・課外授業への生徒の参加人数の増加。部活動引退後、家庭学習時間は平日は3時間以上、休日は8時間以上。国公立大学合格者数140名以上。【3年部】 【学校説明】 (1年部)平日2時間、休日4時間の学習時間を多くの生徒が確保できたが、休日の学習時間の確保についてはバラツキがみられた。また、2学期の成績優秀者は108名。評価が新課程に代わって多い人数となった。次年度は、成績優秀者の基準を見直す必要があると感じた。 【学校説明】 (2年部)正副担によるスタレコのチェックや面談や声掛けを継続的に実施することができた。学習時間は、休日の時間を増やしたい。 2学期末の成績優良者は、41名であった。 【学校説明】 (3年部)朝課外から授業、放課後課外、自習、家庭学習のサイクルの確立・継続と睡眠時間の確保が学力の向上と健康の維持管理につながる。心身のリフレッシュのための休養時間をどうとっていくかが考えどころである。皆勤生徒は100名に届かなかったことは残念である。	B			
		③大学入試共通テスト(英語)における得点率の向上と、生徒・保護者・教員間の学習履歴の情報共有を実現する。【教務課】 【学校説明】 学校全体で、学習履歴をClassiを用いて共有する体制ができた。生徒・保護者・教員ともにClassiの活用頻度が高くなり、コミュニケーションツールとしても機能している。	A			
		④新着情報や生徒による図書委員会の活動を通じて図書室利用を呼びかけ、利用者を増やす。【図書課】 【学校説明】 新着図書の教室掲示、図書委員による教室での図書室の利用の呼びかけを随時行った。また、図書委員によるピブリオバトルで紹介した本は、冊子にして新入生の読書案内として配布した。年度末に図書館報も発行している。	A			
		(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】 ①6Csのcollaborationについて、全体の50%がレベル4に到達する。【研修課】 【学校説明】 年度途中の段階で57.3%であり、達成することができなかった。さらにプログラムを精査し、目標を達成できるようにしたい。	B			
		(3)特別活動の充実 【市共通項目3】 ①行事等において、生徒主体の場が昨年度より多い場面となっている。【生徒課】 【学校説明】 生徒は意欲を持ち活動している。より生徒主体となった活動場面にしたい。	B			
		2 生徒指導	(1)一人一人を大切に 【市共通項目4】 ①いじめゼロを目指す。【生徒課】 生徒の校内の人間関係における相談が校内の職員になされる。【教育相談室】 【学校説明】 いじめ事案として1件の指導を行った。指導後は良好な関係を築いている。 いじめ等につながる生徒間のトラブルについては、比較的早い段階で教員に相談がなされ、次の対応へつなげることができた。 ②問題行動の減少を目指す。【生徒課】 生徒の困りごとが、2、3週間程度の早い段階で相談される。【教育相談室】 【学校説明】 長期欠席等にもつながる生徒の心身の不調等について、学校へ相談がなされる場合と、外部機関を利用する場合と、二極化の傾向にある。		A	引き続き迅速な対応をお願いしたい。 B 問題行動をゼロにすることは難しいと思うが、なかなか学内では相談しにくいこともあるので、学外の利用に誘導することも場合によっては考えられるのではないかと。
					③・年度当初に5教科で初期指導を行うとともに、学習時間調査を毎日実施し、習慣の定着を図る。 ・年間を通して10回以上の講演会を実施する。【進路課】 【学校説明】 ・学習時間調査の内容を全学年統一し、毎日実施することができた。 ・学年に応じた進路講演会や、大学から講師を招いての出張授業等、年間13回行うことができた。	
		3 進路指導	(1)進路指導の充実 ①・年度当初に5教科で初期指導を行うとともに、学習時間調査を毎日実施し、習慣の定着を図る。 ・年間を通して10回以上の講演会を実施する。【進路課】 【学校説明】 ・学習時間調査の内容を全学年統一し、毎日実施することができた。 ・学年に応じた進路講演会や、大学から講師を招いての出張授業等、年間13回行うことができた。		B	情報が多ければ進路の選択も広がる。よくやっていると思う。 A

3 進路指導		②・各学年、年間5回以上進路だよりを発行する。 ・3年部職員は年間2回以上、進路研究会に参加し、内容を全体に報告する。【進路課】	B	A	関係職員が生徒の状況を共有し、指導のベクトルを揃えたきめ細かい対応をお願いしたい。
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①無事故・無違反を達成する。【生徒課】	B	B	社会の一員として、自他の安全や命を守ろうとする意識を育てたい。
		【学校説明】 達成することができなかつたため、今後も継続して指導していく。			
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	②生徒の安全を最優先に考え、施設・設備等の定期的な点検及び不具合箇所の早期対応を図り、生徒が安心して学校生活を送るための環境整備を行う。【事務室】	A	A	市高の施設は県立高校に比べるとかなり充実しているように感じられる。
		【学校説明】 日頃から施設や設備等について点検や整備等を行うとともに、教職員の依頼に基づき修繕・交換等を実施した。また本年度も新型コロナウイルス感染症対策として国の補助金等を活用し、衛生環境及びICT環境の向上を図り、併せて施設等の整備計画の見直しも行った。			
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①生活習慣の確立に関する各学年部の取り組み ・遅刻・欠席の少ない学年を目指す。学年皆勤の生徒を150名を目標とする。【1年部】 ・年間皆勤者数150名以上【2年部】 ・年間の皆勤生徒130名以上。【3年部】	A	A	コロナ禍でもあり、心配されることも多い中、充実した学校生活を送ることができている。
		【学校説明】 (1年部)一部で長期欠席者が出たのは残念だが、多くの生徒は遅刻・欠席も少なく順調な高校生活を過ごすことができた。2学期の皆勤生徒は178名(54.2%)であった。 (2年部)全体的に穏やかな生徒が多く、良い雰囲気の中で学校生活が遅れている。いじめの認知件数は0件であり、お互いを尊重した対応ができる学年である。 2学期末皆勤者154名であった。 (3年部)落ち着いて生活を送ることができた。お互いを認め合う中で切磋琢磨し、人としての成長が見られた。			
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①日々の通常清掃を充実させ、体温チェック等の健康管理を含めた規則正しい生活習慣を身に着けさせる。【保健環境課】 相談室より、保健講座、人権教育において人権尊重の立場を生徒へ明確に伝える。【教育相談室】	A	A	人権尊重の精神は、平和や持続可能な社会の礎でもある。また、課題を抱える生徒のために、職員・保護者・関係機関等が連携したきめ細かい対応をお願いしたい。
		【学校説明】 コロナに関わる欠席(感染者、濃厚接触者、ワクチン接種および副反応等)、さらにインフルエンザによる欠席を加え、欠席者が非常に多い中、生徒の出欠の状況や心身の変化について、継続的かつ深く把握し、情報共有を適切に行うことができた。			
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①組織的・協働的な教育活動に取り組む教員が全体の80%以上。【管理職】	A	A	教育の国際化を踏まえ、生徒一人ひとりの意欲の控除とより深い学びのために、継続した研究・研修をお願いしたい。
		【学校説明】 ほぼ全ての教員が、SSH事業を始めとする、組織的・協働的な教育活動に前向きに取り組むことができた。今年度入学生から始まった観点別評価については、全体研修を踏まえて全ての教科で実施し、必要に応じて見直しが行われた。次年度は、1・2年生が観点別評価の対象となるので、教科の教員だけでなく学校全体で課題を共有し取り組みたい。			
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①今年度実施した教育課程、学習評価法等について適切であったか、検証する機会を設ける。【教務課】	A	A	改善が確実に行われている。
		【学校説明】 新教育課程について、教育課程検討委員会で改善点をまとめることができた。学習評価について、2回の職員全体研修で、教職員の共通理解を深めることができた。			
10 施設設備	(1)リサイクルや省エネの推進	②年度末に学校経営構想の到達度に関するアンケートを実施し、当該項において70%以上の教職員から「達成した」の回答を得られるようにする。【研修課】	A	A	アンケートの結果も入れた方が説得的である。
		【学校説明】 学習評価の研修を2回、授業力向上研修を2回、コンプライアンス研修を2回、小論文研修を1回、SSH関連の研修を2回行った。加えて今年度はランドデザインの研修を年度当初に取り入れることにより、教育活動の方向性を職員全体で共有した。			
	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①年度末の振り返りシートにおいてグループの年間計画を意識した活動ができたかどうかについて評価を受ける。【研修課】	B	B	本年の成果に関する記載も追加した方が良い。
		【学校説明】 年間計画について、全体で中間評価をする等、次年度以降より工夫したい。			
	(1)リサイクルや省エネの推進	②地域防災訓練への参加者数の5%程度増加。【総務課】	A	A	高校生は防災に大きな力になる。訓練には積極的に参加させたい。
		【学校説明】 今年度は昨年度よりも地域防災訓練を実施する地域が増え、生徒参加者は68人で昨年の30名よりも倍増した。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①古紙リサイクルの更なる推進を図るとともに、可燃・不燃ごみの分別の周知、徹底を図る。また、省エネについては、教室等の照明のLED化を計画的に進めていく。【事務室】	B	B	LED化は予算の問題もあり、実施できなかったのはやむを得ないと考える。
		【学校説明】 循環型社会を推進させるためにリサイクルやごみの分別などの啓発を行うとともに、学校用務員による廃棄物の確認を行った。また電気料金の高騰に伴い、不要な電気の使用を止めるよう教職員及び生徒に指示をした。LED化については、施設修繕等に多く予算を費やしたため実施できなかったが、今後も推進していく予定である。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	①各種発表会を公開し、科学部によるサイエンスショー等も実施。【科学探究科】	B	A	確かにこの先の課題はあると思うが、今年度の目標は達成していると考えられる。
		【学校説明】 発表会等を例年どおり開催して成果普及や成果還元に努めたが、さらなる静岡市への貢献と学校独自アセスメントの活用については課題が残った。次期SSHでの改善を期す。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	②・研究内容に関する評価平均値3.0以上。 ・科学系コンクールでの受賞2点以上。【科学探究科】	A	A	全国レベルの賞を受けるなど、取り組みの成果が大きく花開いている。
		【学校説明】 中間報告会での教員評価平均値は2.4だったが、その後内容を深めた班が多く、数値の向上が見込まれる。日本学生科学賞での受賞など6つの受賞に恵まれた(1/26現在)。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	③教材の公開、ポートフォリオの活用について研究し、II期での取組を改善したSSHIII期申請書を作成する。【科学探究科】	A	A	実績は必ず評価されるものと期待している。
		【学校説明】 II期5年間の研究実践と外部評価を経て、本校SSHの特色は「カリキュラム開発」であり「地域への成果普及」が課題と結論づけて次期SSHに申請した。			
	(1)科学探究科の特色化と指導の充実	④・「プログラムを通して気づきが得られた」と回答する教員70%以上。 ・少人数授業に対する生徒満足度85%以上。【科学探究科】	B	A	昨年度の評価と比較してAとした。まずは60%の壁をクリアしてほしい。
		【学校説明】 「SSHに係る授業での指導が自身が担当する教科に探究的な学びを取り入れることにつながった」と回答した教員の割合は58%だった。生徒アンケートは2月に実施する。			

学校から 経営のまとめ(成果と課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応が始まり3年目となった。一昨年度、昨年度と実施が困難であったことも、少しずつではあるが、本来の形態に近づけて実施ができるようになり、本校の掲げる教育目標をほぼ達成できた。 ・文部科学省指定のSSH事業では、科学探究科・普通科ともに、フィールドワークや校外の方々との関わり合いを持ちながら探究的な活動を進めることができた。また、年度末のSSH生徒成果発表会は、科学探究科と普通科の生徒が互いに学び合う機会となっている。さらに、両科とも、自らの探究活動を校外へも発信しようとする積極的な姿勢が見られ、主体性が育まれている。 ・授業をはじめとした学習活動や探究活動、部活動などあらゆる場面で、生徒の自己有用感を高める教育活動を推進した。 ・今年度から始まった観点別評価については、教員全体で研修に取り組み、それを基に全ての教科で実施することができた。 ・今年度は、学校案内を刷新し、学校ホームページに加え、より本校の魅力発信することができた。土曜公開授業の学校説明会や静岡市内公立高校合同説明会に多くの中学生・保護者が来校し、一定の成果が得られた。 ・次年度も、コロナ禍で行ってきた教育活動やこの3年間実施ができなかった教育活動を、整理・分析し、生徒にとってより魅力ある市高を作ることができるよう全職員で取り組んでいきたい。

学校関係者評価委員会まとめ
<p>日頃から、教職員一丸となって目標達成に向けて取り組んでおり、生徒も生き生きと勉学を始めとするその他活動に励んでいることを踏まえ、全体として極めて高く評価できる。</p>